

# 新大陸 南米神話が北上 第1部

両大陸 主題は  
同じ 近親姦と殺  
戮が世界を創造

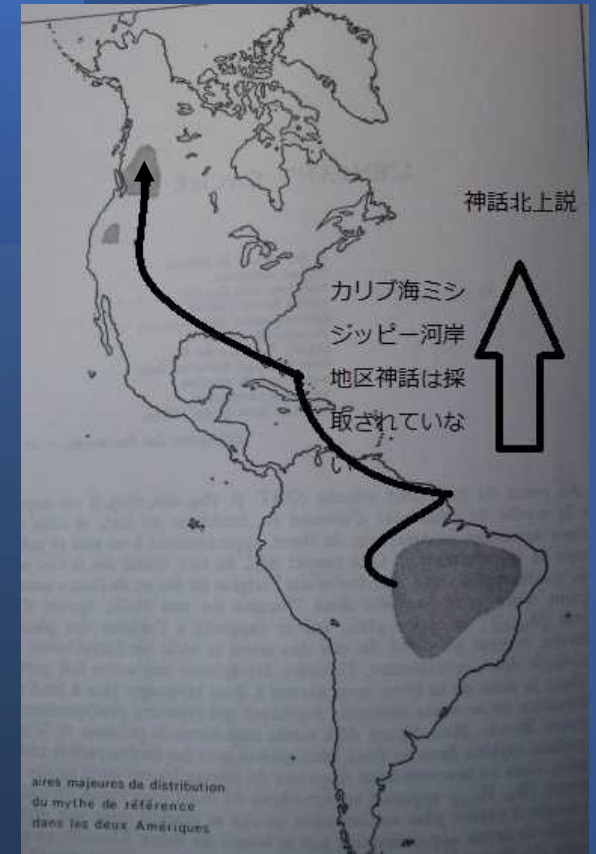
## 新大陸 神話北上説を追う

### 図の説明

左 南米大陸上の網はBororo族  
などが居住したマトグロッソ  
「火と水の起源神話」を伝承  
(裸の男の挿絵から)

北米の網はイシス神話の語り手  
Klamats族の住む北西部地区

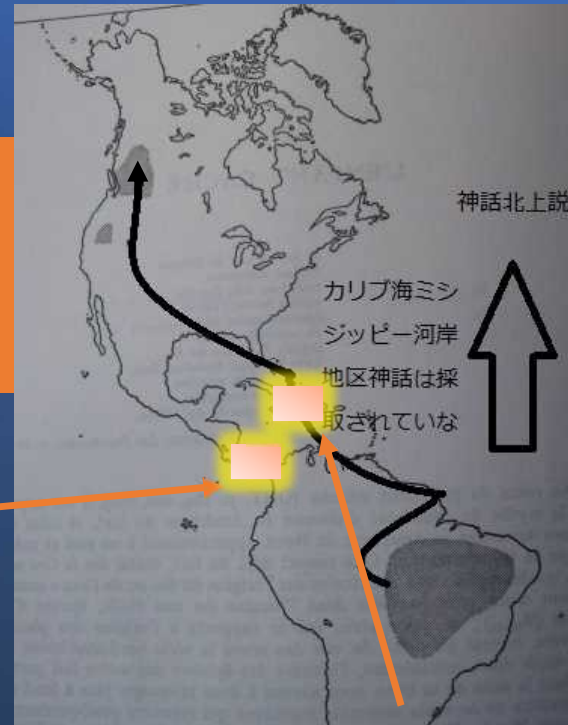
右 神話の北上経路を推定した  
(円、矢印などは部族民)



## 新大陸 神話北上説を追う

神話北上民族南下が  
カリブ海経由であろ  
う理由

ダリエン地峡  
踏破は難しい



カリブ諸島の先住民はコロンブス船団員と最も早く接触した。天然痘など旧大陸疫病に感染し、死に絶えた。彼らの神話は伝わらない

## 新大陸 神話北上説を追う

1南北大陸の神話群は似かよう

2南米神話の内容は簡素、短い。北米神話の筋は複雑。故に神話は北上

3 新大陸の民族移動は北から南、神話も南下が定説。北上説は無視される、多くの民族学者に否定される

これに反駁するレヴィストロースの論点を紹介する

## 新大陸 神話北上説を追う

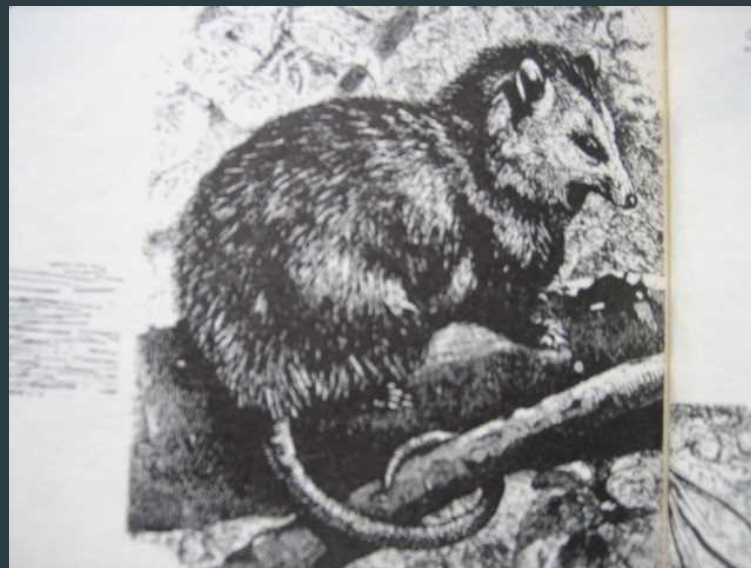
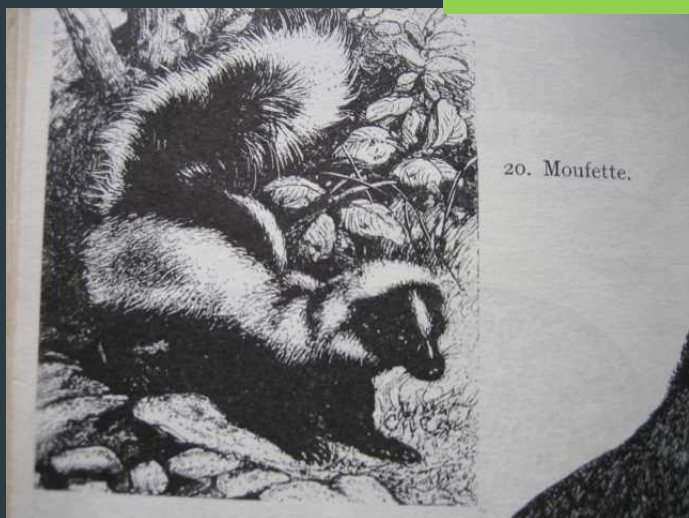
南北で似通う2の神話 :

M660 Klikitat族（北米太平洋岸、今のワシントン州に居住）隠された妻  
鷺とスカンクは兄弟。鷺が狩りに出ているあいだスカンクは妻を娶った。鷺が戻り獲物を床において寝入った。スカンクは（小屋の）暗がりのなかで妻と喋り込んだ。翌朝、鷺はスカンクに、夜中に誰と喋り、笑っていたのかと問うと « Je ris parce qu'une souris vient me voir, me court sur le visage » ネズミがやってきて顔の上を走ったから笑ったのさ（裸の男37頁）

M95 Tukuna族（南米アマゾン）Umari木の娘  
兄弟Epi（穂）に知らせずにDyaiがびっくりするほど美しい娘を嫁にとった。彼は娘を手に挟んで転がし、小さくして横笛（umari木で出来ている）の中に隠した。4日目の夜、Dyaiは嫁を笛から引き出し己のハンモックに導き、声も立てずに嫁を楽しんだ。5日目の夜、小さな貝を重ねた腕飾りが揺れ音を立てた。クッスと嫁が笑ってしまった。翌朝、誰かが笑ったな、誰と一緒に笑ったのかとEpiが尋ねると « c'est le balai qui rit parce que je l'ai chatouillé » 箒さ、くすぐったら笑ったと答えた。（同）

DyaiはSarigueフクロネズミの擬人化。スカンクと合わせて同氏の著作（生と調理）の挿絵デジカメを貼っておきます。

## 新大陸 神話北上説を追う



## 新大陸 神話北上説を追う

« On est allé dans le troisième volume de l'Amérique du sud à l'Amérique du nord, grâce à des mythes inversés dont la signification était identique. Dans le quatrième volume, grâce à des mythes identiques (puisque M529~531 reproduisent M1, M7~12) dont la signification était inversée »

訳：第3巻（Origine des manières de table）では（前半の）南米神話と（後半の）北米神話の幾つかの神話を比べると（mythes = 神話そのものとする）は逆転しているが意味（signification = 伝えかけ）では同一の神話と判定でき、南北を結び付けられた。

さらには第4巻（北米神話）では（南北神話を見比べ）同一内容の神話ながら、伝えかけが逆転する神話群のおかげで北上説を確認できた（括弧は訳者、裸の男564頁）

## 新大陸 神話北上説を追う

### 南北神話の比較、類似の法則性

#### 1. 神話そのものは逆転、伝えかけは同一

(第3巻の基準神話「モンマネキの冒険」 対 「月の嫁」)

#### 2. 神話そのものは同一、伝えかけは逆転

(第1巻「火と水の創造」 対 第4巻「イシスの冒険」)

## 南北神話の比較

1. 神話そのものは逆転、伝えかけは同一

(第3巻の基準神話「モンマネキの冒険」 対 「月の嫁」)

2. 神話そのものは同一、伝えかけは逆転

(第1巻「火と水の創造」 対 第4巻「イシスの冒険」)

## 新大陸 神話北上説を追う

M1（Bororo族）とM530（北米Klamath族）の神話そのものの比較。

北米神話のイシスの冒険はいわく因縁（近親姦と死の幾層かの重なり）の果に英雄イシスが生まれる。

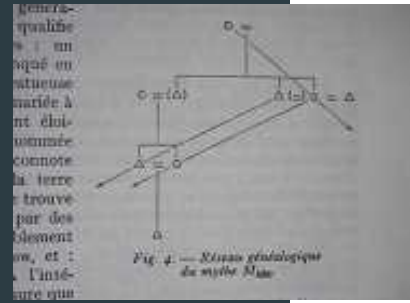
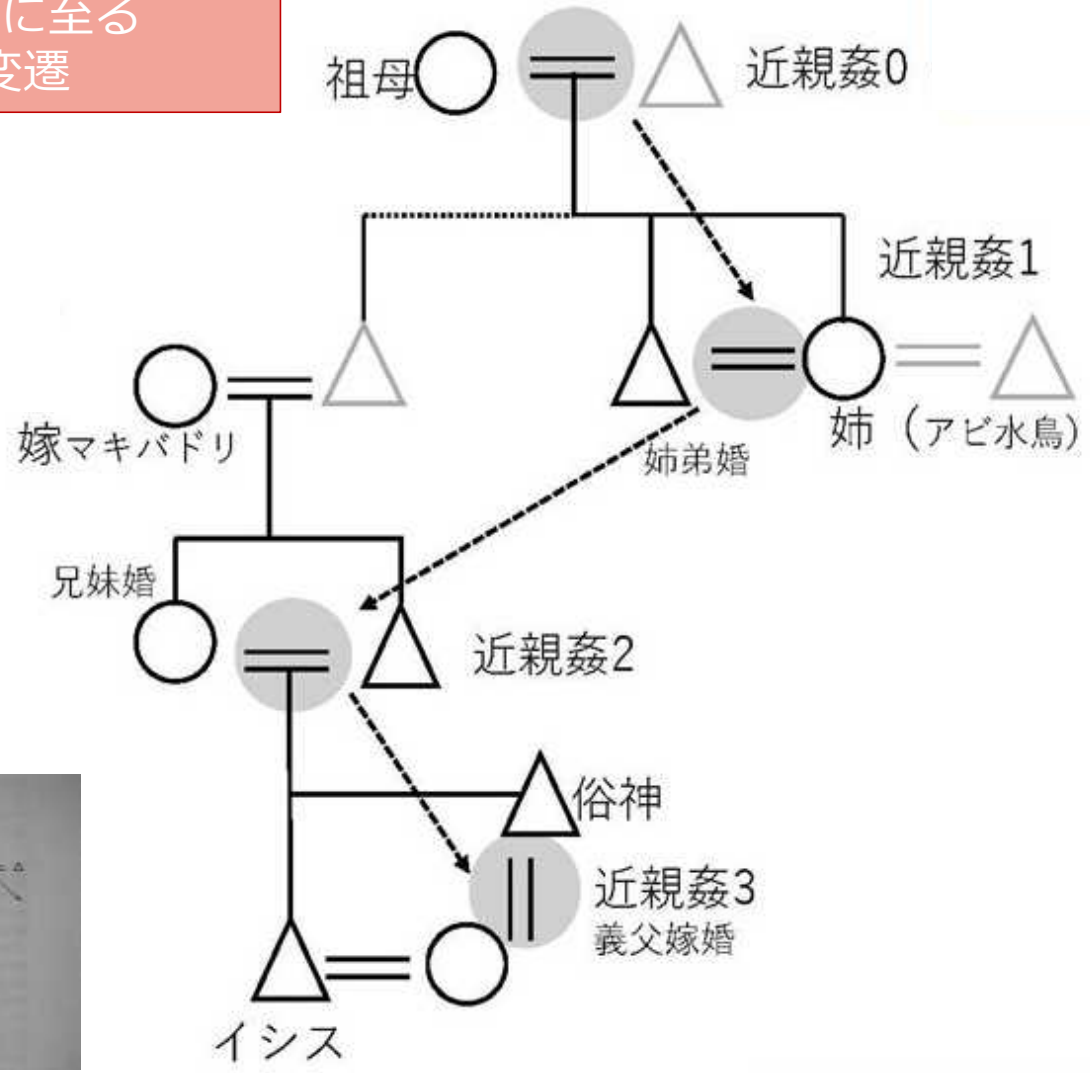
原型と目されるM1神話では一回の上下婚（ハハコタワケ）、さらには一旦（断崖で）死んで少年が英雄に進化する。

筋道の共通性をして北米Klamath族の伝えるイシス神話（M530）は、南米マトグロッソBororo族の「火と水の起源」神話M1の伝播とレヴィストロースは主張する。

次頁の図を参照。

南米/北米神話、英雄誕生に至る  
近親姦の変遷

親族図 1 M1  
Bororo族  
(生と料理から)



## 南北神話の比較

1. 神話そのものは逆転、伝えかけは同一

(第3巻の基準神話「モンマネキの冒険」 対 「月の嫁」)

2. 神話そのものは同一、伝えかけは逆転

(第1巻「火と水の創造」 対 第4巻「イシスの冒険」)

## 新大陸 神話北上説を追う

「伝えかけは逆転」 :

« Au point où nous sommes, mieux vaut, souligner la symétrie dès à présent manifeste entre les versions nord et sud-américaines de l'histoire du dénicheur d'oiseaux. Le héros de M1, supposé impubère, viole sa mère.

Celui de M530 n'a pas de mère, et il est non seulement adulte et marié, mais couverts de femmes. Au début du mythe, l'un n'a même pas encore reçu l'étui pénien. L'autre apparaît comme le maître des plus riches habits.

Il faudra que son père oblige à se dépouiller des pieds à la tête. Pour pouvoir revêtir sa coutume et assurer son aspect physique (page29) »

## 新大陸 神話北上説を追う

「伝えかけは逆転」 訳 :

今、我々は南北アメリカの鳥の巣荒らし神話に見える対称性 « symétrie » を語らねばならない。M1（南米ボロロ族伝承、神話学全体の基準神話）で英雄はまだ成人となっていない時期に（通過儀礼前の少年、生物学的成熟とは異なる）母を犯す。

M530（北米Klamath族伝承）の英雄イシスは母を失い、複数妻を持つ正丁。片方（M1）はペニスケース（同族は日常ではこれを唯一の衣装としている）すら帯びず、もう一方は服飾も華麗。

父親は大木に巣くった鳥の巣をあらすよう息子に命じるが、頭から足の先までの衣装を脱がなければならなかった。

逆転する伝えかけ :

1. 少年対正丁 通過儀礼前（狩に参加できない） 対 既婚  
狩りにも長ける
2. 服飾はみすぼらしい（服を着することを許されない裸体） 対  
絢爛さ

## 新大陸 神話北上説を追う

« Cette relation de symétrie s'étend à tous les aspects du mythe. Ainsi, l'inceste avec l'épouse du père qui sert de départ à M1i, s'inverse dans M530 en inceste avec une épouse du fils.

Par vengeance, dans le premier cas, par calcul dans le second, le père isole son fils au sommet d'un arbre ou paroi rocheuse sous prétexte de l'envoyer dénicher ici des aras, là des aigles » (同)

対称は両の神話群のあらゆる要素に広がる。かくして、父の配偶者との近親姦、これがM1神話の出発点となり、それが反転して息子の配偶者との姦淫。

一方では直接の復讐、片方は計算づく（俗神力の源がパイプにあると知る）で追い詰める。

木の頂点と崖の上、金剛インコ対鷲一との対象が見える。

## 南北神話の比較

### 1. 神話そのものは逆転、伝えかけは同一

(第3巻の基準神話「モンマネキの冒険」 対 「月の嫁」)

### 2. 神話そのものは同一、伝えかけは逆転

(第1巻「火と水の創造」 対 第4巻「イシスの冒険」)

## 新大陸 神話北上説を追う

神話そのものは逆転、伝えかけは同一

« Nous ne cherchons pas le pourquoi de ces ressemblances, mais le comment. En effet, le propre des mythes que nous rapprochons ne tient pas à ce qu'ils se ressemblent ; et souvent même il ne se ressemblent pas. Notre analyse tend plutôt à dégager des propriétés communes, en dépit de différences parfois si grandes qu'on considérerait des mythes que nous rangerons dans le même groupe comme des êtres totalement distincts (page32) »

(南北神話の相似について) なぜ (Pourquoi) 似通うのか、その理由を探しているのではなく、どのように (Comment) 相似があるのかを求めている。我々が採り上げる神話の本来姿は、見比べても似通いに気づくわけでは無い。多くは、僅かな似通いすら見せない。

よって我々の解析とは幾つかの特有性状 « propriétés » を探し出すところから始める、たとえ人々には相違が大きいと見られても、それら神話を同一の群として、そのより分け理由からは明瞭にその群に帰属する個体神話と認められる。

# 神話モンマネキ (南米) と月の嫁(北米) の関係

「食事作法の起源」における新大陸、南北での文化と自然の相克

要素 (着地点は <b>社会の創成</b> )	モンマネキ神話 (M354, Tukuna族、アマゾン) 嫁取りの失敗	月の嫁神話 (M452, Arapaho族、北米プレーリー) 月の成功、太陽の失敗	共通項
1 きっかけ	M1神話 (Bororo族) の洪水後の世界、一家族のみが救い出され孤立する。文化とは火と狩りの技術のみ。	天上家族の孤立、月と太陽の不規則活動	<b>孤立</b>
分析的理性で共通項が多い			
2 行動	モンマネキは婚姻同盟を結ぶため、嫁取りを試みる。しかし4例の人獣婚、5例目にして人の女との婚姻にいたる。	月と太陽の「地上の女」評定、地上に降りて誘惑する	<b>同盟の模索</b>
3 判定結果	食事作法 (食材の採取、加工、季節性などの取り決め) に違反、いずれも破断になった。	咀嚼中の音立て (心地よい音) でカエルは落選、Arapaho 娘は受け入れられる。しかし地上に脱出し、月と人との同盟は破断	<b>破断</b>
4 社会創成	社会形成の基礎である婚姻同盟は創成できなかった。嫁を探しにモンマネキはカヌーで川を下る。次の段階への移行を示唆。	月嫁は子を抱え地に戻るとするが、墜落死する。文化創成は次代に移る。	<b>次段階</b>
5 預言者	老母 ; 食事作法の厳守を息子に厳命	義父が嫁に妊娠、胎児の生育、分娩の理を教える。以来女に月経が発生し、子は10月で生まれる。	<b>社会の形成前に文化規範が存在する</b>

弁証法的解析で一致

弁証法的解析で一致

神話学「食事作法の起源」から  
作成・部族民通信通信 2019年9月30日

## 新大陸 神話北上説を追う

前頁の表は南米Kutuna族伝承のモンマネキ神話（第三巻、食事作法の起源に収録）と北米Arapaho族の月の嫁神話（同）の比較の図。

こちらが前1の「神話そのものは逆転、伝えかけは同一。第3巻の2の基準神話」

説明：モンマネキは男の努力で地上、月の嫁では女の願望が天空と逆転する。

両者は伝えかけで同一（同盟形成と周期性の獲得）

神話は逆転となる。

## 新大陸南北の基準神話

- 1 マトグロッコ (ブラジル中央高地)、アマゾンア、北米の3神話比較
- 2 M1 (Bororo族) 神話の英雄はTucana族のモンマネキ神話に、Klamath族の月の嫁神話に引き継がれた。
- 3 Bororo、Tucana、Arawak (ギアナ、カリブ海に居住) を經由した  
(カリブ海、北米南部の先住民神話を採録した民族誌は無い)

# 文化創造のグローバリズム

レヴィストロース神話学1,2,3巻のまとめ

Syntagme Analytique

Paradigme Dialectique	Syntagme Analytique	
	連続と分断 文化の創成 (ボロロ族などマトグロッソ)	同盟の模索 拡大努力 (モンマネキ、アマゾニア)
世の始まり 連続性(自然) 遺恨に苦しむ社会	洪水の生き残り、モンマネキと老母 (火と狩り)	天の村は昔にのみ、ある男が移住して造ったのじや(アラバホ古老)
母系居住、近親姦の猖獗 食事作法の未確立(生肉喰らい、喰いたい放題、喰う順番無し)	火と狩り(肉)、一家族(文化の最小単位)での生活	太陽と月は息子 天空を不規則出没、周回も不徹底(夜続きの寒冷、長い夏の酷暑)
父との確執(通過儀礼) 反逆(金剛インコの雛を渡さない)	異種婚同盟の試み カエル、地虫、鳥	規則性を画策(嫁迎えの談義、地の女評定)
ヒーローの追放、孤立、死	文化規範に合致しない (美観=鳥の脚、食事作法=ムカデ喰い、対話なし) 魚の創造	月は人の女で嫁とり成功、太陽はカエル選んで失敗(文化の相克)
再生、ジャガー(文化担い手)に救助される、文化(火、狩り)の取得	規範にあわない漁獲法で近すぎる婚姻(人の女)の破局	規格外のカエル(美観、食事作法=噛み音を立てない、対話=壁に向かい話しに乗らないビヨン飛びおしっこ)
地に戻る、父と母を殺戮(文化の相克、それを乗り越えて創造)	上半身女に取り憑かれる(文化の相克)	義父(天の家父長)の戒め 月に規則性(日夜の交替、女への支配 月経、妊娠、出産)
洪水、生き残りヒーローと祖母が文化(火と狩り)を継承	モンマネキ 出奔(同盟の模索)	再生産確保の反作用(太陽に残虐性の発生)

伝播流れの方向

作成・部族民通信

2019年9月30日 番神

## 新大陸神話の北上説

批判 : 民族移動に伴うから似通いは当然

反論 : 似通いではなく違いを論じているのだ

## 新大陸神話の北上説

- 1 似通いではない、違いを論じ
- 2 二通りの違い
  - 2-1 神話は同一、伝えかけは逆転
  - 2-3 神話は逆転、伝えかけは同一
- 3 相違と類似。対称性の中で正転と逆転 (Ordonné、Inverse)。規則性が伝播の証

# 新大陸 南米神話の北上 第1部 了

近親姦殺戮が世  
界を創造